

能代市農山村地域再生可能エネルギー共生協議会第三回会議

日時 令和2年11月19日(木) 15:00~16:15

場所 能代市役所会議室9・10

会議概要

1. 開会

2. 案件

(1) 風力発電設備等の設備整備区域について

事務局より、市における再生可能エネルギーに対する考え及び設備整備区域の議論する内容について、事業者より、選定理由について説明。

<事務局からの議論内容の説明概要>

- ・風力発電については、風況などの関係から立地場所が制約されること、転用される農用地の面積が限定的であること等から、第1種農地であっても、風力発電事業を実施することが必要かつ適当であって、市内の他の土地で代替することが困難であると認められること等、一定の要件を満たす場合には、設備整備区域に含めることが可能とされている。
- ・風力発電の場合、年間を通じて安定的な風量があり、効率的な発電が可能であると見込まれることも要件となる。ただし、農地への影響を必要最小限の範囲とすること、農業上の効率的かつ総合的な利用に支障を及ぼすおそれがないこと等が必要。
- ・今回、風力発電の設置を予定する区域を選定するにあたり、どのような経緯で当該事業地となったか、その理由を含めて事業者よりご説明いただき、その妥当性について、議論願います。
- ・なお、今回の設備整備区域について、能代市農業委員会、及び本日欠席の秋田県農業会議には、別途、協議会事務局より意見聴取のうえ、反映させる。

<事業者からの説明概要>

- ・当事業は、風車建設にあたり、平成29年3月に、計画段階環境配慮書において、風車建設が可能な地域として、浅内鵜川エリア、能代北エリア、八峰町エリアを選定。
- ・その後、平成30年3月に環境影響評価方法書において、ガン・カモ・ハクチョウ類等の渡り鳥が小友沼と八郎潟干拓地を移動することから、そのルートとなる浅内鵜川エリアを除外し、能代北エリア、八峰町エリアの2エリアを事業エリアにした。
- ・風車の設置場所は、住居密集地域から一定の距離(600m)が確保できていること(騒音において、住宅地では、45dB以下になること)、年間平均風速で6.5m/s以上であること、風車間の距離はブレード旋回範囲(D)の3倍程度取れること、雪氷の飛散及び景観法より、2車線道路からの離隔を200m確保できることが必要。
- ・その他条件を精査し、絞り込んだ結果、今回の立地場所を選定するに至った。

<協議結果>

風力発電設備等の設備整備区域について異議なし。

秋田県農業会議と能代市農業委員会については、事務局が別途ご意見を確認する。

(2) 基本計画（案）について

事務局より、基本計画（案）を説明。

- ・再生可能エネルギーと農林業の健全な発展に資する取り組みに関する事項について、以下のとおりとした。

→再生可能エネルギー発電設備の整備を促進する区域において発電事業を行う者は、売電収入額の一部を拠出し、地域の農林業の健全な発展及び活性化に寄与する事業に活用することとする。また、活用する事業は、地域、市及び事業者と協議し決定することとし、幅広い農林業振興を通じて地域振興を目指すこととする。

- ・上記のほか、基本方針、設備整備区域等、計画案について説明。

<協議結果>

基本計画（案）について異議なし。

(3) 今後の進め方について

事務局より、今後、農業を取り巻く環境が変化することも予想されることから、来年度も協議会を継続することとし、作業部会にて農業振興に資する取り組みを議論させていただきたい旨を説明。→作業部会を進めるにあたっての方針について、未来の農業の振興に資する取り組みについて検討していくこととなった。

<主な意見>

座長

作業部会で議論を継続するにあたり、協議会から基本的な考え方を示すことで作業部会での議論が進むのではないかと考える。

売電益から一部を地域に還元していくうえで、これを、迷惑施設の補償という形で考えると、あまり効果的ではないのではと懸念している。今後、能代市が再生可能エネルギーに力を入れていく際に、それと同時に新しい地域振興に取り掛かることが出来るのだと、そのきっかけとなる資金と捉えたほうが良いのではないかと懸念している。未来へ向かって能代市の農林業が発展していく姿、それが見えるような取り組みを検討してもらえればと考える。

皆様からご意見を聞きたい。

白神ウインド
大森氏

いろいろな方々の話や要望を聞きながら、地域の活性化につなげるためにこのようなことはどうかというのを、我々が中に入って進めていきたい。待つのではなく、何かないですかと地域に出向くという前向きな姿勢で進めたい。

土地改良区 薩摩氏	農業振興のために積み立てて使っていただければありがたい。
J A工藤氏	ネギは新規就農者が出てきているが、稲作の後継者不足が課題。法人化等を進める必要があると考える。 ネギについて、20億円を目指して取り組んでいるが、出荷施設が手狭になってきていることが課題。
森林組合 金野氏	林業のほうは直接影響が少ないと考えている。
能代市長	農地を活用して風力発電事業を実施したいということであることから、風車が農業振興につながることも、また、農業だけではなく、社会全体がこの風車が建ってよかったね、と言ってもらおうことの2点が重要。この2点を作業部会で議論して頂ければ。

3. その他

<能代市長より>

今後、事業者と協定を結び、災害時に電気を供給するシステムというものを作っていきたいと考えている。事業者にもご理解を頂いている。風の松原風力発電所には蓄電池が併設されており、例えば、市で電気自動車を用意して、災害時に充電させてもらい、その電気自動車が避難場所に行って活用することを検討している。ぜひこの白神ウインド合同会社の事業においても、再生可能エネルギーの特色を活かして、公的な部分として、地域の皆様の安全・安心につながるような事業となって頂くよう、お願いしたい。

<事務局より>

作業部会について、日程調整等のうえ開催日をお知らせすること等を説明。